



治山事業100周年記念式典

平成26年4月9日

海 運 ク ラ ブ

東京都千代田区平河町2-6-4

主 催 一般社団法人 日本治山治水協会

記念式典次第

1 治山功績者表彰式

- 1) 開 式
- 2) 主催者挨拶
- 3) 来賓祝辞
- 4) 来賓紹介
- 5) 表 彰
 - 治山事業の推進
 - 治山技術の開発向上
- 6) 閉 式

2 記念講演

講演者 東京大学名誉教授 太田 猛彦 氏

演 題 治山事業100年と今後の展望

農林水産大臣賞

(敬称略)

■ 治山事業の推進

太田 猛彦



(経歴)

昭和16年12月14日生

昭和60年2月 東京農工大学農学部助教授

平成2年7月 東京大学農学部教授

平成15年4月 東京農業大学教授を歴任、
現在、東京大学名誉教授

(主な功績)

日本学術会議会員として、森林の公益的機能の定量的な評価について主導的にとりまとめ、治山事業による事業効果の定量的評価手法の確立、森林整備・保全の重要性の啓発など、治山事業の推進に大きな功績を挙げた。

また、林政審議会委員として、治山関係のみならず森林行政全般にわたる施策の展開に貢献した。

さらに、山地災害危険地区や溪流生態系保全、森林理水機能など、治山事業の推進に係る林野庁の各種調査の検討会委員長等として、そのとりまとめにおいて主導的な役割を果たした。

新潟県治山ボランティアセンター

(設立)

平成9年10月1日



会長 富永 功一

(主な功績)

平成9年の設立以来、山地災害防止に関するボランティア活動を行っており、新潟県内で豪雨や地震による大規模な災害が発生した際には、県からの支援要請を受け、山地災害による被害状況調査や治山施設の点検調査等に協力してきた。

これまで、平成16年7月「新潟・福島豪雨災害」、平成16年10月「新潟県中越地震災害」、平成19年7月「新潟県中越沖地震災害」、平成23年7月「新潟・福島豪雨災害」など数多くの災害の対応で活動実績を挙げている。

厳しい現地状況の中、被害状況の早期把握に努めることにより、被災箇所の迅速な復旧計画の策定等に大きく貢献しており、平成20年11月には新潟県と「災害時の応援業務に関する協定」を締結した。

■ 治山技術の開発向上

日鐵住金建材 株式会社

(設立)

昭和48年 4月20日



代表取締役社長 増田 規一郎

(主な功績)

樹木などの植生に覆われた自然斜面の表層部の掘削・排土や樹木の伐採を行うことなく、補強材、支圧板とワイヤロープを組み合わせ、斜面表層部を補強する「ノンフレーム工法」を、部材・構造、安定計算、施工方法等に係る各種試験を積み重ねることにより、新たに開発した。

また、施工場所が急峻、狭隘であることから、資材、施工機械の開発・改良を加えるなど、現地での施工性の向上にも努めた。

これらの成果について、設計・施工マニュアル等として整備するとともに、全国における講習会を10年以上にわたり続け、施工方法の改良にも継続して取り組んだ結果、累計施工量は130万㎡に及んでいる。

このように、森林の有する土砂崩壊防止等の機能を活かしながら斜面保全と環境保全を両立させる新たな工法の開発・普及に大きく貢献した。

京都府木製治山施設調査研究会

(設立)

平成10年 4月1日



初代代表 青合 幹夫

(主な功績)

平成10年に「京都府木製治山施設調査研究会」を設立し、京都府立大学や京都大学木材研究所と連携した実証試験や部材の破壊強度試験を実施するなど、全国に先駆けて木製治山ダムを初めとする木製治山施設の開発に取り組み、その本格導入を図った。

また、これらを通じ、木製治山ダム設計マニュアル等を策定するとともに、木製治山ダムの修繕方法や管理手法を発表するなど、木製治山施設の計画・設計・施工・修繕・管理といった一連の体制を整え、木材を利用した治山施設の普及に大きく貢献した。

さらに、森林組合等木材の供給者とも連携し、地域の木材事情に適合し、効率的に木材を利用した木製フトン籠等の構造物の開発にも努め、地域の森林整備等にもつながる土木分野での間伐材の利用拡大に大きく貢献した。

■ 治山事業の推進（7名（団体））

北海道 新谷 融 (北海道大学名誉教授)

北海道 特定非営利活動法人 北海道魚道研究会

秋田県 一般社団法人 秋田県林業コンサルタント

静岡県 御前崎市海岸防災林保護組合

愛知県 鈴木 隆 司 (元 県職員)

徳島県 倉 良 重 良 (元 県職員)

愛媛県 江崎 次 夫 (愛媛大学名誉教授)

■ 治山技術の開発向上（1団体）

兵庫県 ロープネット・ロックボルト併用工法研究会

会 長 沖 村 孝 (神戸大学名誉教授)

■ 治山事業の推進 (14名 (団体))

- 秋田県 米 澤 正 (元 県職員)
- 山形県 特定非営利活動法人 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会
- 栃木県 荒 川 純 一 (元 県職員)
- 栃木県 笹 川 兼 由 (元 県職員)
- 石川県 金沢市海岸砂防協会
- 岐阜県 井 口 志津夫 (元 県職員)
- 岐阜県 深 津 康 雄 (元 県職員)
- 岐阜県 藤 澤 善 幸 (元 県職員)
- 静岡県 掛川市海岸防災林保護組合
- 広島県 高 木 博 道 (元 県職員)
- 山口県 佐 伯 清 (元 県職員)
- 長崎県 一般社団法人 長崎県林業コンサルタント
- 長崎県 長崎県林野地すべり対策チーム
代 表 早 稲 田 正 (元 県職員)
- 宮崎県 小 川 仁 (元 県職員)

■ 治山技術の開発向上 (2名 (団体))

- 愛媛県 愛媛県森林組合連合会
- 長崎県 市 村 正 彦 (元 県職員)

記念講演・講師の紹介

■ 講 師

東京大学名誉教授 **太 田 猛 彦 氏**

■ 経 歴

東京大学名誉教授。専門は森林水文学、治山・砂防工学、森林環境学。1978年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了（農学博士）。

東京農工大学、東京大学、東京農業大学で研究・教育に従事。この間、(社)砂防学会会長、日本森林学会会長、日本緑化工学会会長、日本学術会議会員、林野庁林政審議会委員、治山懇話会世話人代表等を歴任。

2001年には日本学術会議による答申「森林の多面的機能について」を取りまとめた。現在、F S Cジャパン議長、かわさき市民アカデミー学長等を務める。

著書に、「水と土をはぐくむ森」、「溪流生態砂防学」、「宮川環境読本」、「森林飽和」など多数。

■ 記念講演「治山事業100年と今後の展望」の要旨

治山事業は、明治44年に始まった第1期森林治水事業の開始を起点とすると、平成23年に100年目を通過した。この間、昭和35年に制定された「治山治水緊急措置法」の下で治山事業は大発展をとげ、森林の山地災害防止機能は大いに向上し、現在、国土の保全、国民の安全・安心の一翼をしっかりと担っている。また、平成の時代に入って、環境の保全や地球温暖化防止にも役立つ治山事業が開始されている。しかし一方で、森林が豊かになるにつれ、国民には治山事業の重要性が見えにくくなっている事実もある。そこで林野庁は昨年、技術の継承・治山事業への理解の増進を目的として「後世に伝える治山～よみがえる緑～」60選を選定した。本講演では60選の話題を含め、これまでの治山事業の取り組みやその成果、今後の治山事業の展開方向や災害に強い森林づくりについて展望する。

